

苦悩に光 被災地でこそ

ドメスティックバイオレンス(DV)や多重債務、引きこもりなど、東京都新宿区歌舞伎町でよろず相談に応じる一般社団法人「日本駆け込み寺」(玄秀盛代表)が7日、仙台市青葉区国分町に支部を開く。通称「国分町駆け込み寺」(2)。(東北一の歓楽街に拠点を構え、東日本大震災の影響が続く地域で暮らす人々が心に抱えるさまざまな問題の解決に力を注ぐ。開設準備のため仙台を訪れた玄代表(56)に抱負を聞いた。)

「駆け込み寺とは。悩みを抱える人が一歩を踏み出す場所。分野を問わず、面接と電話で私やスタッフが相談に応じる。胸の内をこごとん聞き、内容を整理すると、

仙台に「国分町駆け込み寺」開設

玄 秀盛さんに聞く



本人が解決に向けて動きだす。その人の中にある解決の種を見つける手助けをする。相談は10年間で約2万件。警察や行政が手に負えない問題もあり、暴力団やDVの男

げん・ひでもりさん 1956年大阪生まれ。両親の離婚などで4人の母と4人の父のもとで育つ。中学卒業後、約30の職を経験。2000年に成人T細胞白血球ウイルスに感染していることが分

かったのを機に生活を一変。02年「NP法人日本ソーシャル・マイノリティ協会」(通称新宿歌舞伎町駆け込み寺)を設立。11年7月、一般社団法人日本駆け込み寺に改組し代表を務める。

性と渡り合うこともある。自分の経験や過去の相談事例で「人」から学んだことを基にするのが私のやり方だ。なぜ仙台に支部を。震災後、被災者の相談が増えた。家族や親戚とうまくいかない、仕事を失うなど内容は多岐にわたる。私も神戸市須磨区に住んでいたときに阪神大震災で被災し、長田区で炊き出しなどの支援活動をした。その経験からも仙台に拠点が必要だと思った。

「国分町駆け込み寺」は飲食店ビルの1室で、塩釜市出身のスタッフが「住職」として相談に応じる。私も月に2、3回は来る。地元のNPOや企業、寺なども連携している。

「歓楽街に拠点を構える理由は。歓楽街には人が集まる。悩みを抱える人も足を運びやすい。知名度が高い国分町に開設することで存在を知ってもらう。

【?】国分町駆け込み寺 仙台市青葉区国分町2丁目6の10、ベニヤビル2階。連絡先は022(395)7740。7日は開所式のみ。通常の開所時間は月～土曜の午前10時～午後6時だが、8日も相談を受け付ける。無料。

「被災地の現状をどう見ると、訪ねてもらえる。復興バブルの恩恵を受ける人と、生活が苦しくなる人の格差が広がっている。羽振りがいいのは主に東京などの資本だ。

「阪神大震災で、仮設住宅に取り残されたのはお年寄りばかりだった。東北でも自殺する人や土地を捨てて出て行く人の増加が懸念される。危機感が募るのはこの冬だ。夫の暴力を相談した女性が、親戚から「生きていられただけでありがたいんだから」と、我慢するように言われた。そんなことがあっていいはずが

ない。被災地では個々の苦しみが無視される傾向が続いている。駆け込み寺を始めたきっかけは。白血球のウイルスに感染していることが分かり、死を覚悟してから人生観が変わった。金もうけがむなしくなると、暴力団や行政相手にもひるまない知識、度量を生かして人助けをしようと思った。発病はしていないが、常に死を意識する。命の尊さは知っているつもりだ。

「今後の抱負は。一人でも多くの人を助けたい。沿岸部の出張相談室も検討する。駆け込み寺を地元の人に育ててほしい。相談した人だけでなく、ボランティア希望者も気楽に訪ねてほしい。

(聞き手は生活文化部・渡辺ゆき)